

九州から杉梱包材1,300m³入荷

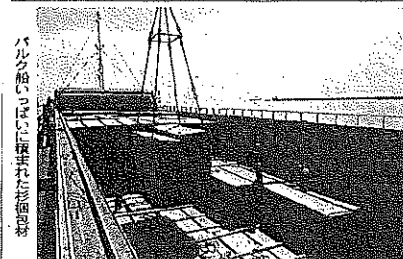
瀬崎林業

内航船で初、関東の杉需要に対応

瀬崎林業(大阪市、瀬崎民治社長)は、九州の大手製材工場との連携により、杉の梱包用製材品を内航船で川崎港に入荷した。入荷量は約1,300立方尺、内航船を使い、梱包材のみ1,000立方尺以上の規模で首都圏に入荷するのは日本で初めてという。18日には荷役が終わり、順次販賣していく。

入荷した資材は杉の下、今回の入荷が実現した。14日に三池港(福岡県)で船積みされた杉梱包材の主要サイズは、同様に川崎港に入荷し、18日に川崎港の1港に降ろして18日に荷役が完了した。瀬崎林業は現在、月間約400立方尺の杉梱包材を関東圏内にて販売しており、7月以降はさらに月間販賣量

を上乗せする考え、今一度販賣力を強みに、九州からの入荷は販賣につなげる。九州の製材工場では幅広材の供給が不足しているため、梱包材の需要にも対応される。



バルク船に積み込まれた杉梱包材

関東圏内にも協力製材工場を持つ各社は製材サイズなどを住み分けられており、九州からの入荷分及び既存協力工場でのサイズ重荷は

関東圏内にも協力製材工場を持つ各社は製材サイズなどを住み分けられており、九州からの入荷分及び既存協力工場でのサイズ重荷は

関東圏内にも協力製材工場を持つ各社は製材サイズなどを住み分けられており、九州からの入荷分及び既存協力工場でのサイズ重荷は